

第7回佐久市総合計画審議会 議事録（要旨）

日 時：平成23年9月27日

15:00～16:30

場 所：佐久消防署講堂

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

(1) 第一次佐久市総合計画後期基本計画について

①序論（案）について

事務局より資料説明（資料1）

質疑、意見

<p>(委員)</p>	<p>6 ページのところに地域医療再生の充実が記載されています。そこに佐久総合病院の再構築が書いてありますが、つい最近佐久総合病院は、再構築に伴って、仮称であった基幹医療センター、地域医療センターを改めまして、高度先端医療や救急医療を担うのは、佐久医療センターという名称になっています。それで地域の一医療を担うのは地域医療センターではなくて、そこは佐久総合病院となることが発表されています。これは既に厚生連、佐久総合病院が発表したことなので、仮称ではなくて、正式に決まったものをここに記載した方がよいということ。それから10 ページに生活環境の整備や活動しやすい風土づくりという文言がありますが、言葉の正確性で注意をしたいわけでありますが、風土という表現というか言葉はその土地の状態をいいます。例えばその土地の気候、水質、地形、地質とか、そういうことを総合してですね。その風土が住民の生活様式や色々な様々な影響を与えるわけです。ここでいうと生活環境の整備や活動しやすい風土づくりというのは、風土というそのものの言葉の表現はあまり適切ではないので、変える必要があるのではないかと思います。環境整備とか、環境づくりとか。風土というのは、そういうものを変えることが出来ないのも無理なこと。もう一点の質問は、15 ページからプロジェクトがあって、説明がありましたように、そのプロジェクトという意味というのは今後総合計画ではプロジェクトに基づいて、こういうプロジェクトを組んでですね、魅力の倍増・弱点克服・新しい仕組みづくり・佐久を広めるというのを、目に見える形でプロジェクトとして組んでいくという計画なのか、様々なものをこういう風に4つにグループ化しただけなのかということですが、このプロジェクトとして位置付けて展開するという意義をどの程度、市ではお考えなのか、その3点です。</p>
-------------	--

(事務局)	<p>まず第一点では、佐久総合病院の関係は、ご指摘いただいた通りだと思います。今委員さんおっしゃいましたように、訂正させていただきたいと思います。それから風土という表現につきましては、適切な表現があるということで、検討させていただきたいと思います。それからプロジェクトの関係では4項目ありますが、こちらにつきましては先程申しあげましたように魅力倍増などプロジェクトで4項目あります。色々な施策項目の中で、プロジェクトに関するチャレンジを掲げていますが、少しハードルを上げてある関係で、後期5ヵ年の間だけで出来るものではございません。もう少し時間がかかるものもございまして、ただ、位置づけとしまして、出来るだけ達成をする努力をしたいという設定です。</p>
(会長)	<p>質問は、こういうプロジェクトに対して、チームを設けていくのかということですか。</p>
(事務局)	<p>プロジェクトチームとか組織上の特異な設定は考えていませんが、当然今所管係の中でチャレンジ目標を掲げてそれに向けて努力するという考え方があります。</p>
(委員)	<p>プロジェクトとして掲げますと、普通これを見た、それを聞いた住民としては、市が部局横断的、そういうのを共同で魅力倍増するために横断で取り組むように見えますよ。予算編成もこれを一つの目印にして、分かりやすく、そして決算の時もこれがどこまで達成できたか、というような意気込みが、このプロジェクトということだけには感じられない。一応書いただけというだけでは、どうなのかなと。せっかく書いたなら、もう少し意欲的にプロジェクトを実施するための色々な方策なり、やり方というのを、市民に目に見える形で取り組むということが必要と考えますがご検討ください。</p>
(事務局)	<p>確かに横断的な組織を作って、ということではないですが、今までなかったこのチャレンジプロジェクトを明確にしまして、位置付けたということが、この後期基本計画の推進テーマでして、チャレンジという、一つのキーワードを掲げてありまして、そういった対応をしていくということでご理解をいただきたいと思います。</p>

②後期基本計画（素案）について

事務局より資料説明（資料2）

質疑、意見

(委員)	2 ページの右側ですが、10万都市、100万経済圏、1000万交流圏とあるんですが、少子化とかで厳しい時代になってきていますが、第一次佐久市総合計画の基本構想で書いてありますが、よくわからないので、改めて1000万等ご説明お願いしたいのですが。
(事務局)	第一次佐久市総合計画の基本構想の中で、将来都市像の実現に向けていくつかの施策を打ち立てていますが、その中の大きな一つの構想としまして、佐久市自体が10万都市で合併になったということで、それを生かしまして、地理的や交通道路整備をいたしまして、100万経済圏をつくりたいと、100万経済の産業拠点としてつくりたいという風に考えております。それをもっと広げまして、今度は交流という観点から観光や文化やスポーツの交流を通じて、佐久市を拠点として1000万の交流という範囲に広げていきたいという考え方を、第一次総合計画の基本構想の中で設定してあります。2 ページには、そのチャレンジの中で、1000万交流圏を述べていますが、第一次総合計画の基本構想を10万都市、100万経済圏、1000万交流圏ということをチャレンジとして掲げています。申し訳ありませんが、一番下の段で、1000万交流圏の説明があります。10万都市、100万交流圏と書いてありますが、これ100万経済圏の誤りで、10万都市、100万経済圏、1000万交流圏、ということで、その拠点の一つを目指していることから、チャレンジ目標の中の1000万交流圏というものであります。
(委員)	あの具体的には100万経済圏については例えば長野県では東信ですとか、1000万なら東海地方だとかという、具体的な地域の説明はないのか。
(事務局)	第一次総合計画の中で具体的にどこからどこまでという設定はしておりません。北陸新幹線、長野新幹線などありますが、東京から北陸まで、逆に日本海から太平洋をつないだエリアというのを想定しています。
(委員)	わかりました。ただこの数字だけでは、わからないので、補足がないと大げさだと思うので補足をどっかに入れてもらいたい。
(委員)	43 ページで、情報公開を進めて請求に基づく開示件数を、積極的な情報提供を進め、それに基づいて目標が、公開文書の開示件数を

	<p>減らすとなっているが、公文書公開の請求は、住民の知る権利の行使であり、趣旨は、そういうことがなくても十分情報公開を行いますので、公文書請求をしなくても要らなくなるという趣旨のようだが、請求が増えていくのは、別に増えるのを抑える必要はないので、件数をわざわざ198から158に目標として減らすことは適切ではないと思いますが。公開請求というものがなくても、積極的に情報公開を行っていきます、ということになって、これは適切にどんどん行われていけば、公文書の公開請求というのは必然的に減ってくると思いますが、件数を減らすことを目標にするのはどうかと思います。あくまでも住民の権利の行使に任せて、公文書公開の件数がどんどん増えてもおかしくないので、件数を減らすことを目標にするのは適切でないというのが私の意見です。</p>
(事務局)	<p>再度ご意見を踏まえさせていただいて検討したいと思う。</p>
(委員)	<p>今更と言われてしまうかもしれませんが、例えば47ページの定住自立圏構想の文面と、一番最初の佐久市の主要課題1の項目の中で、人口の増加ということが、今までこんなに強く出ていましたでしょうか。当初からずっと議論してきたのは、定住自立圏構想という大きな目で見ると、全体がより豊かになっていく、より質の高い地域になっていくという話をしてきたつもりです。人口減少という大きなトレンドの中で、この文章を読んでもみると、場合によっては佐久市だけが人口が増えて、いびつな地域が出来上がってしまう可能性だってある、という心配も一方ではあるわけです。私は、質として地域全体が適切な人口維持、人口の適正維持が図れるという表現の方がいいと、再三言っていたつもりです。悪く言えば佐久市（場合によっては、佐久平駅周辺等の一部）だけが人口増加が図られればいいのかと捉えられてしまうので、何か配慮が必要なのかなと。</p>
(事務局)	<p>佐久市の場合は、国勢調査（速報）では微増という状況にある中で、計画人口、目標人口は10万6千人という設定をしていますので、大変厳しい設定をしているので、先程の色々な施策の中で、空き家バンクですとか、出生率の向上ですとか、子育てですとか、企業誘致ですとか、そういった施策を展開することによりまして、その目標に出来るだけ近づけていきたいということを公表していくということで、社会的な移動というのもありますし、そういった要素もありますから、定住自立圏ということで佐久市が佐久地域の中心として役割を果たすことで地域全体の底上げを図っていきたいということがありますので、人口増加と地域全体の発展という両方の施策展</p>

	開していきたいという考え方でご理解いただきたいと思います。
(委員)	少なくとも佐久定住自立圏、佐久地域、これをどんどん魅力的にして、そして交流人口も増やし、定住人口を増やし、より活性化し、自立した地方のモデルになるみたいなイメージを掲げるのは素晴らしいことであると思います。一方で今までの延長線上のまま人口増加すると思われてしまう可能性もあるので、やっぱり定住自立圏構想でもっと健全な人口維持を図るような表現としたらどうかと思います。
(事務局)	ご意見として承っておきます。また色々あると思いますが、ここで全部とはいかないと思いますので、お気づきの点はご遠慮なく事務局まで意見をください。
(会長)	佐久市だけ人口が増えまして、周りの市町村が疎外感を感じるということでは、定住自立圏は存在しえないと思いますので、検討をお願いします。
(委員)	7ページですが、先程の説明でもありましたが、城山小学校の学校給食。食育の基本は学校教育であって、お腹を満たす為に学校で給食を出しているわけではなくて、食を通じてきちんと教育をしていくことが、極めて大事なことで、そういう点では、やっぱりややトーンダウンしているという印象があるのでご検討をお願いしたい。
(事務局)	城山小学校は逆に事業を落とさせていただきましたが、ただ食育については学校給食に関しては、結構厚く書かせていただいております。逆に言えば他のところが書いていなかったのが追記をしたというようなイメージの方が、事務局としては強い印象があり。持ち帰りをしまして、検討させていただきたいと思います。
(委員)	地区懇談会に委員は出席していいですか？
(事務局)	もしご都合がつくようでしたら、ご出席いただけたら大変ありがたいと思います。

(2) その他

事務局より説明 (今後の日程等)

4 閉 会